

2018年9月18日

松阪市議会議員
中島清晴様

松阪市議会議員
久松倫生

去る、9月14、15日東京都内で開催された第14回地域人権問題全国研究集会へ政務活動費を活用して参加しましたので報告します。

この地域人権問題全国研究集会は、第2回を松阪で開かれた経過があります。今日の「同和行政」の終結や基本的に部落問題が解決されたといえる到達点について、人権同和を巡る全行的な動向をつかんでおきたいこと、とくに「部落差別解消推進法」の制定による逆流の実態とその実効を許さないたかについて知っておきたいと考えました。さらに、地域からの暮らしと人権を守る取り組みなど学んでいきたいと思い参加しました。

1日目 全体会 基調報告と岡田知弘京都大学大学院教授の記念講演「持続可能な豊かな国を地域から」と長野県御代田町茂木裕司町長の特別講演「住みやすく健康で暮らせる御代田町の取り組み」がありました。

岡田講演について

安倍政権のもとで、改憲と地方自治体制の危機が進むということの具体的な解明があり、「富国強兵」国家と国家戦略特区、道州制、地方創生との関連が大きな視野で述べられました。地方自治との関係では、とくに増田レポート（地方自治消滅論）の虚構性とそれを使った地方自治の危機の促進が詳しい数値を示して述べられ、「公共サービスの産業化」政策の行政私物化が地方でも推進されようとしていること、財界や総務省の方向について解説されました。そうした動きに対して、都市内分権、住民自治組織づくりなどから新たな地域政策が広がっていることも対置され、中小企業振興条例、公契約条例などが具体的な事例として取り上げられています。

講演から、いま進められようとしている国の政策が、地方自治体の本来の団体自治、住民自治方向とは矛盾をきたすこともよく分かったように思います。沖縄の基地をめぐる国と自治体の在り方は戦後民主主義の根本にかかわる問題です。

地方での実践例として岡田氏は、経済政策の専門家であることから専門的的角度がそこが中心となりましたが、松阪市で起こっている地域医療の課題などは、国の強行的押し付けと地域の実態、住民要求との基本的な矛盾を引き起こす問題だと思います。日ごろの取り組みに、大きな視野を持つことができる公演だったと思います。

茂木裕司町長の特別講演について

長野県御代田町は同和行政の終結をめぐって、今の町長が誕生した歴史的経過がありま

す。講演は、現在の町政の優れた内容、介護予防など様々な努力と試行錯誤、町民の協力で高かった介護保険料を県下下から2番目まで下げることができたことなど、実践が語られました。

その前段として、同和行政の終結の意義を5点述べられたので、聴いたままに整理しておきます。一つは、住民のなかの壁をなくすことは同和事業を無くすことしかない。第二に、行政全体がゆがめられる感覚麻痺から、法令順守、公平平等になる。第三に、自由におものが言えない状態から、自分の頭で考えるようになること。第四に、人権＝同和ということから、本来の人権がゆがめられる、第五に、ゆがみから、町民の皆さんのためのお金がつけなくなる。同和事業を一掃したことで変化が起き今の町政の前進につながっているとのことでした。

福祉施策など全国的に注目もされており、学ぶ機会があってもよいと思いました。

2日目 分科会 4分科会がありました。3の『『部落の歴史』と運動の歩み』へ参加しました。

この分科会は、この間出版された部落問題研究所の「部落問題解決過程の研究」全5巻にかかわって成果についての部落問題研究所の西尾泰広市の報告と埼玉県連の運動についての内海ハル子氏の報告がありました。

部落問題研究所の「部落問題解決過程の研究」の第5巻年表編には、松阪での実践も多く掲載されています。自分たちの議会活動について、数年前に人権同和にかかわる不公正を一掃したという到達への確信は持ちつつ、なお今日克服すべき課題が何か、住民や自治体職員、教職員などに残る「差別の未解消意識」の問題がどうして残るのか（生まれながらにして空気のごとく差別意識がある、部落住民以外みな差別者、差別するものとされるものに区分される…という「朝田理論」がいまだ根強くこうした人たちの間で解消されていないのではないかと考える）など、考えたくてこの分科会へ参加しました。

報告の後、自分の意見も述べましたが、運動や議会活動の面では到達があっても、そこへいたった過程と理論的な教訓を導き出すことの大事さ、これまでの実践の積み上げを整理継承していくことの大事さを共有できました。

所見

参加者には、運動だけでなく、行政職員や教員関係者の若い層も結構あって、現状では部落問題は基本的に解決しているがそれをどう自信をもって言えるのかという発言されている方もありました。そういう方々に確信もっていただけるような研究会の内容の工夫も必要かと思いました。

こういう場では、自分の実践を整理できるとともに、新たな課題も見いだせてありがたい機会をいただいたと感謝申し上げます。